

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	人間関係とコミュニケーションⅡ	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	徳山 ちえみ	学年・学期	2年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要 ・ 授業内容	介護福祉現場において、人材育成の重要性を理解させるとともに、組織の管理運営、チームマネジメントの実践的理解を深めさせる。人材育成や活用など、人材管理とリーダーシップについて教授する。						
到達目標	①介護サービスの特性と求められる介護実践のマネジメント方法について理解する ②チームケアの必要性と実践方法について学ぶ ③介護現場の組織と運営管理について理解する ④福祉現場における人材育成の必要性を理解する						
授業計画・内容							
第1週	オリエンテーション						
第2週	介護サービスの特性と求められるマネジメントー介護サービスと他サービスの相違点ー						
第3週	介護サービスの特性と求められるマネジメントーヒューマンサービスの特徴・特性ー						
第4週	介護サービスの特性と求められるマネジメントー倫理・専門性の必要性ー						
第5週	介護現場の組織と運営管理ー福祉サービスの組織の機能と役割ー組織とはー						
第6週	介護現場の組織と運営管理ー福祉サービスの組織の機能ー法人理念・経営理念ー						
第7週	介護現場の組織と運営管理ー組織の構造と管理ー組織の成り立ち、構造・チームとリーダー、組織の経営・運営管理の視点、コンプライアンスの遵守						
第8週	チーム運営の基本ーチームの機能と構成ー						
第9週	チーム運営の基本ーリーダーシップ、フォロワーシップー						
第10週	チーム運営の基本ーリーダーの機能と役割ー						
第11週	チーム運営の基本ー介護現場の業務課題の発見と解決の過程ー						
第12週	介護現場における人材育成と管理ー教育体系:OJT Off-JT、ティーチング、コーチング、スーパービジョン、コンサルテーション						
第13週	介護現場における人材育成と管理ーキャリア支援・開発、キャリアデザインー						
第14週	介護現場における人材育成と管理ーモチベーションマネジメントー						
第15週	まとめと試験						
評価方法	到達度評価と、出席状況、講義中の提出物を加味し評価する						
教科書 教材など	「人間の理解」中央法規出版						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	社会保障論		学科名	介護福祉学科		授業方法	講義	
担当教員	岡崎 利治		学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・授業内容	①現代社会における生活問題と社会保障制度の必要性、②社会保障制度の概念・理念とその対象、③わが国の社会保障制度の体系とその概観、④先進諸国における社会保障制度の概要について教授する。							
到達目標	介護福祉士として活動していく際の、社会保障制度全般に関する必要不可欠な知識が得られることを目標とする。							
授業計画・内容								
第1週	現代社会における生活問題と社会保障制度の必要性							
第2週	社会保障制度の一般的概念・理念とその対象および歴史							
第3週	わが国における社会保障制度の概念・理念と日本国憲法第25条							
第4週	わが国における社会保障制度の体系							
第5週	社会保険制度とは－保険制度の概要、社会保険制度と民間保険制度の関係							
第6週	医療保険制度の種類とその概観							
第7週	年金保険制度の種類とその概観							
第8週	雇用保険制度、労働災害保険制度の種類とその概観							
第9週	障害者総合支援法の概観							
第10週	介護保険制度の概観							
第11週	社会手当制度の種類とその概観							
第12週	生活保護制度の概観							
第13週	社会福祉制度の種類とその概観							
第14週	社会保障の財源と費用							
第15週	先進諸国における社会保障制度の概要－イギリス・北欧							
評価方法	定期試験等で評価する							
教科書 教材など	「社会保障」中央法規出版							
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目		

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	地域包括ケア論	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	平松 正臣	学年・学期	2年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	地域福祉の基本的理念や理論、歴史的背景、法制度の現状や課題、地域福祉の推進の方法や主体について学習する。社会福祉をめぐる法制度と地域福祉の重要な役割について論じる。地域社会に生じている生活課題を把握する。						
到達目標	地域福祉の理念や概念(ノーマライゼーション、権利擁護、ソーシャルインクルージョン)を理解する。地域福祉の理論や歴史的背景、地域福祉の展開について理解する。地域福祉を推進する団体(基礎自治体・社会福祉協議会・社会福祉法人・民生委員、自治会ボランティアや当事者活動について理解する。						
授業計画・内容							
第1週	オリエンテーション						
第2週	地域福祉の歴史、発展過程						
第3週	地域福祉の理念						
第4週	地域福祉の理論						
第5週	地域福祉の推進方法1						
第6週	地域福祉の推進方法2						
第7週	地域における自立支援の思想						
第8週	地域福祉を支える法制度						
第9週	地方分権と地域福祉計画						
第10週	地域福祉の推進主体1(地方自治体、社会福祉法人)						
第11週	地域福祉の推進主体2(社会福祉協議会、民生児童委員、NPO等)						
第12週	地域福祉の推進と福祉教育						
第13週	地域における福祉サービス						
第14週	コミュニティーソーシャルワークの理論と実践1						
第15週	コミュニティーソーシャルワークの理論と実践2						
評価方法	定期試験と出席で評価する						
教科書 教材など	「地域福祉の理論と方法」中央法規出版						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護福祉論Ⅲ	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義	
担当教員	近藤 舞	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須	
授業概要・ 授業内容	介護を必要とする多様な人たちの個別性や介護の実情を理解し、それらの人たちの生活ニーズや生活環境の重要性について講義を中心として論じる。事例や視覚教材の活用により、下記の内容について具体的に理解を深める。							
到達目標	① 介護を必要とする人の生活の場－施設、在宅 ② 介護を必要とする人の生活の個別性を理解する ③ 介護を必要とする人の理解－高齢者、障害者の理解 ④ 介護を必要とする人の生活を支える仕組み ⑤ 介護を必要とする人の生活を支える仕組み－生活環境							
授業計画・内容								
第1週	施設介護の歴史と意義、目的、役割							
第2週	介護を必要とする人の生活の場の理解－施設							
第3週	介護を必要とする人の生活の場の理解－在宅(グループホーム、サービス付き高齢者住宅等、小規模多機能型)							
第4週	特別養護老人ホーム－従来型介護、ユニットケア							
第5週	介護老人保健施設							
第6週	障害者支援施設							
第7週	認知症対応型施設介護(グループホーム)、小規模多機能型生活介護							
第8週	サービス付き高齢者住宅、介護型有料老人ホーム、住宅型有料老人ホーム							
第9週	介護を必要とする人の理解－生活の理解							
第10週	介護を必要とする人の理解－高齢者の暮らしを支える介護							
第11週	介護を必要とする人の理解－障害者の暮らしを支える介護							
第12週	介護を必要とする人の理解－その人らしさと生活ニーズ							
第13週	介護を必要とする人の理解－生活環境の重要性							
第14週	介護を必要とする人の生活を支える仕組みの理解と連携の意義							
第15週	まとめと試験							
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する							
教科書 教材など	「介護の基本Ⅱ」中央法規出版							
実務経験	高齢者福祉施設での介護業務の経験あり					実務経験のある教員による 授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護福祉論Ⅳ	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義	
担当教員	佐藤 伸隆	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須	
授業概要・ 授業内容	在宅介護の課題や介護の継続のための条件整備の方法について教授する。方法としては、講義を中心として、①在宅介護の実態や在宅介護実践について、②他職種連携の実践について、事例や視覚教材の活用により、下記の内容について具体的に理解を深める。							
到達目標	① 在宅サービスの基礎的知識の理解 ② 在宅介護の特性と在宅介護の課題の理解 ③ 状態別による在宅介護の理解 ④ 在宅で要介護者を支える多職種連携の必要性と展開方法の習得							
授業計画・内容								
第1週	ホームヘルプサービスの歴史							
第2週	在宅介護の現状と課題							
第3週	制限された条件下における介護(場所の制限・人の制限・道具の制限・動きの制限)							
第4週	在宅介護の原則と在宅介護の利点を生かした介護の展開方法							
第5週	自立にむけた介護(在宅)継続のための協働する多職種の役割と専門性							
第6週	他職種連携の意義と課題－チームアプローチの意義と目的							
第7週	他職種連携の意義と課題－チームアプローチの具体的展開							
第8週	チームアプローチ－ひとり暮らし高齢者世帯							
第9週	チームアプローチ－高齢者夫婦世帯							
第10週	チームアプローチ－介護力の低下している世帯							
第11週	チームアプローチ－認知症高齢者							
第12週	チームアプローチ－複数の課題を抱えた要介護者							
第13週	地域包括ケアシステムにおける多職種連携の意義と介護福祉士の役割							
第14週	在宅での支援における権利擁護の重要性							
第15週	まとめと試験							
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する							
教科書 教材など	「介護の基本Ⅱ」中央法規出版							
実務経験	高齢者・障害者総合相談センター、障害者権利擁護センター					実務経験のある教員による 授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護福祉論Ⅴ	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義	
担当教員	佐藤 伸隆	学年・学期	2年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須	
授業概要・ 授業内容	在宅および施設介護サービスの特性について理解するとともに、介護における安全の確保とリスクマネジメントについて教授する。感染症対策について教授する。介護従事者の心身の健康管理と安全の確保について、事例や視覚教材の活用により、下記の内容について具体的に理解を深める。							
到達目標	① 施設介護サービスの特性と起こりうる介護事故の理解 ② 在宅介護サービスの特性と起こりうる介護事故の理解 ③ 感染症予防の意義と目的、介護職の役割の理解 ④ リスクマネジメントにおける連携の必要性和展開方法の習得 ⑤ 介護従事者の安全確保と健康管理の重要性の理解							
授業計画・内容								
第1週	施設サービスの特性							
第2週	在宅介護サービスの特性							
第3週	介護従事者の職業倫理と介護事故防止							
第4週	介護事故の現状と対策							
第5週	介護における安全の確保							
第6週	事故防止、安全対策(1)緊急連絡システム							
第7週	事故防止、安全対策(2)高齢者の転倒事故							
第8週	事故防止、安全対策(3)消費者被害、鍵の閉め忘れ、詐欺等							
第9週	感染症対策(1)感染予防の意義と介護							
第10週	感染症対策(2)感染予防の知識と技術							
第11週	感染症対策(3)施設および在宅における衛生管理							
第12週	介護従事者の心身の健康管理(1)心の健康管理							
第13週	介護従事者の心身の健康管理(2)感染予防と対策、腰痛予防と対策							
第14週	介護従事者の心身の健康管理(3)労働安全、労働法規							
第15週	まとめと試験							
評価方法	レポート、試験、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する							
教科書 教材など	「介護の基本Ⅱ」中央法規出版							
実務経験	高齢者・障害者総合相談センター、障害者権利擁護センター					実務経験のある教員による 授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション技術演習	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習
担当教員	徳山 ちえみ ・ 平松 正臣	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要 ・ 授業内容	具体的な介護場面、チームケア、相談援助場面を体系的に取り上げ、援助の知識と技術をコミュニケーションを中心に実践的に学んでいく。						
到達目標	援助の知識と技術を実践的に習得することによって、専門的援助技術として概念化し、理論化していくための基礎的能力を涵養する。						
授業計画・内容							
第1週	コミュニケーションの基本—自己覚知、傾聴、受容、観察、人間理解						
第2週	コミュニケーションの基本技術						
第3週	面接モデルとアプローチの方法						
第4週	面接におけるコミュニケーション技法						
第5週	面接の諸段階						
第6週	効果的なメッセージを伝達するための基準						
第7週	コミュニケーションとアセスメント						
第8週	コミュニケーションモデル—その I						
第9週	コミュニケーションモデル—その II						
第10週	ケア場面における利用者、家族とのコミュニケーション—事例検討						
第11週	ケア場面における利用者、家族とのコミュニケーション—ロールプレイング						
第12週	ケア場面における利用者、家族とのコミュニケーション—まとめ						
第13週	チームケアとコミュニケーション—事例検討						
第14週	チームケアとコミュニケーション—ロールプレイング						
第15週	チームケアとコミュニケーション—まとめ						
評価方法	レポート、小テスト、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する						
教科書 教材など	「コミュニケーション技術」中央法規出版						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	生活支援技術Ⅳ	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習
担当教員	小野 史恵・増見 富海子・近藤 舞	学年・学期	2年・前期	時間数	60 時間	必須・選択	必須
授業概要・授業内容	<p>老化や障害から生じる介護ニーズを把握し、個々の要介護者の状況に応じた介護技術を使用した身体介護の方法を習得する。①自立にむけた身じたくの介護 ②自立にむけた移動の介護 ③自立にむけた食事の介護 ④自立にむけた入浴・清潔保持の介護 ⑤自立にむけた排泄の介護 ⑥自立に向けた睡眠の介護</p> <p>老化や障害から生じる生活困難への家事援助の必要性を理解し、自立にむけた家事の介護方法を理解する。老化や障害から生じる生活の不便さ理解し、自立にむけた居住環境の整備の方法を理解する。終末期の介護など医療ニーズの高い要介護者に対する援助の方法を理解する。</p>						
到達目標	<p>老化や障害による要介護者へのアセスメント及び生活支援の技法を理解する。そして生活支援技術Ⅰ・Ⅱで学んだ介護技術の基本を、個々の障害形態に応じた介護技術として応用展開ができる。</p>						
授業計画・内容							
第1週	アセスメントと生活支援の技法						
第2週	要介護高齢者への介護技法及び生活支援の方法						
第3週	認知症高齢者への介護技法及び生活支援の方法						
第4週	寝たきり高齢者への介護技法及び生活支援の方法						
第5週	居宅生活の要介護高齢者とその家族への介護技法及び生活支援の方法						
第6週	身体障害による要介護者への介護技法及び生活支援の方法						
第7週	内部障害による要介護者への介護技法及び生活支援の方法—呼吸器・循環器						
第8週	内部障害による要介護者への介護技法及び生活支援の方法—消化器・腎機能						
第9週	言語・聴覚障害による要介護者への要介護者への介護技法及び生活支援の方法						
第10週	視覚障害による要介護者への介護技法及び生活支援の方法						
第11週	重複障害による要介護者への介護技法及び生活支援の方法						
第12週	知的障害による要介護者への介護技法及び生活支援の方法						
第13週	精神障害による要介護者への介護技法及び生活支援の方法						
第14週	医療ニーズの高い要介護者への要介護者への介護技法及び生活支援の方法						
第15週	障害児とその家族への要介護者への介護技法及び生活支援の方法						
評価方法	小テスト、出席状況、レポート、試験により総合的に評価する						
教科書教材など	「生活支援技術Ⅲ」中央法規出版						
実務経験	保健所にて保健課・健康長寿課等の実務経験あり。また、看護師・保健師・養護教諭の資格を取得/特別養護老人ホームにて現場経験あり					実務経験のある教員による授業科目	
	✓						

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護過程実践演習 I	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習
担当教員	近藤 舞 ・ 徳山 ちえみ	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要 ・ 授業内容	具体的な介護場面を想定した、実技指導を中心とする演習形態で、介護過程の展開及び介護過程の実践的展開を習得する。尚、介護過程の展開のうち、「インテーク」「アセスメント」「計画の立案」の場面について演習を行うと共に、グループディスカッションを通して考える能力を養う。また、介護過程で必要とされる記録について、その書き方と報告の方法について学ぶ。						
到達目標	適切な介護サービスの提供のための介護過程の必要性について理解し、利用者の尊厳を守り、利用者の自立支援をめざした介護計画の作成ができる。						
授業計画・内容							
第1週	オリエンテーション						
第2週	インテーク ー 利用者を理解する						
第3週	アセスメント I ー 情報の収集を行う (ストレンクス視点における利用者理解)						
第4週	アセスメント II ー 情報の収集を行う(利用者を取り巻く環境)						
第5週	アセスメント III ー 情報の整理・分析を行う(人)						
第6週	アセスメント IV ー 情報の整理・分析を行う(環境)						
第7週	アセスメント V ー 情報の整理・分析を行う						
第8週	アセスメント VI ー 情報の整理・分析を行う(介護者の視点)						
第9週	アセスメント VII ー ニーズを明確化する						
第10週	計画の立案 I ー 目標の設定						
第11週	計画の立案 II ー 援助方法の立案						
第12週	計画の立案 III ー 援助方法の立案						
第13週	計画の立案 IV ー 社会資源の活用・調整・開発						
第14週	計画の実施の事前準備						
第15週	まとめと到達度評価						
評価方法	レポート、小テスト、授業態度、出席状況および学習の理解度、関連知識の理解度で総合的に評価する						
教科書 教材など	授業にて適宜指示する						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護過程実践演習Ⅱ		学科名	介護福祉学科		授業方法	演習	
担当教員	小野 史恵 ・ 増見 富海子		学年・学期	2年・後期	時間数	60 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	介護実習Ⅲで作成した介護計画にそって、介護過程を振り返り、グループディスカッションを行い、利用者の自立や、利用者の状態・状況に応じた介護過程の実践的展開や介護過程とチームアプローチについて習得する。介護実習Ⅳで展開した介護過程をもとに事例研究を行い、利用者の全人的理解と尊厳を守り、自立と自律を支援するために必要なケアのあり方について、介護実践の科学的探求の視点に基づき考察する。							
到達目標	利用者の尊厳を守り、自立に向けた支援のために必要とされる、介護計画の作成から実施、評価を行う能力が介護過程の展開を通して身につく。							
授業計画・内容								
第1週	オリエンテーション							
第2週	利用者の様々な生活と介護過程の展開の実際Ⅰ－ニーズを見る視点							
第3週	利用者の様々な生活と介護過程の展開の実際Ⅱ－情報の収集・整理・分析							
第4週	利用者の様々な生活と介護過程の展開の実際Ⅲ－ニーズの明確化(グループ討議)							
第5週	利用者の様々な生活と介護過程の展開の実際Ⅳ－計画の立案・目標の設定(グループ討議)							
第6週	利用者の様々な生活と介護過程の展開の実際Ⅴ－計画の立案・援助方法(グループ討議)							
第7週	利用者の様々な生活と介護過程の展開の実際Ⅵ－介護の実施(グループ討議)							
第8週	利用者の様々な生活と介護過程の展開の実際Ⅶ－モニタリング(グループ討議)							
第9週	利用者の様々な生活と介護過程の展開の実際Ⅷ－評価(グループ討議とスーパービジョン)							
第10週	利用者の様々な生活と介護過程の展開の実際Ⅸ－在宅							
第11週	介護過程とチームアプローチⅠ－チームで進める介護過程							
第12週	介護過程とチームアプローチⅡ－ケアマネジメントとの関係性							
第13週	介護過程と在宅ケア－社会資源との関連							
第14週	介護過程と在宅ケア－地域包括ケア							
第15週	まとめと到達度評価							
評価方法	小テストと授業態度で総合的に評価する							
教科書 教材など	資料を配付する							
実務経験	保健所にて地域包括ケア推進室・保健課・健康づくり課等の実務経験あり。また、看護師・保健師・養護教諭の資格を取得/特別養護老人ホームにて介護福祉士として実務経験あり。				実務経験のある教員による 授業科目		✓	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護実習Ⅲ	学科名	介護福祉学科			授業方法	実習
担当教員	近藤 舞・徳山 ちえみ・増見 富海子・小野 史恵	学年・学期	2年・前期	時間数	144 時間	必須・選択	必須
授業概要・授業内容	個別ケアを行うために施設利用者の個々の生活リズムや個性を理解し生活の生活上の需要を把握し、個別性を尊重した介護サービス計画の作成方法のためのアセスメント方法を教授する。利用者や家族とのコミュニケーションを通して信頼関係の構築方法を教授する。チームの一員としての介護実践や多職種協働のあり方を指導する。						
到達目標	利用者との相互理解・信頼関係の構築ができる。観察や記録、職員の情報により、利用者の身体レベルを理解する。障害のレベルに応じたエビデンスに基づく介護技術を習得する。施設と地域との関連について理解する。受け持ち利用者の個別援助計画の立案方法を理解する。						
授業計画・内容							
第1週	業務の引継ぎを体験する						
第2週	施設の行事やレクリエーションの企画に参加する						
第3週	施設の様々なサービス活動に参加する						
第4週	チームの一員として利用者の個別性に応じた介護実践ができる						
第5週	他職種との連携方法を学ぶ						
第6週	変則勤務を体験する						
第7週	受け持ち利用者の個別介護計画作成のための情報収集・アセスメントの抱負を学ぶ						
第8週	受け持ち利用者の個別介護計画のための分析と課題抽出の方法を学ぶ						
第9週	受け持ち利用者の個別介護計画の介護目標の設定						
第10週	受け持ち利用者の個別介護計画の立案や記録方法を学ぶ						
第11週							
第12週							
第13週							
第14週							
第15週							
評価方法	レポート、授業態度、出席状況、実習記録および学習の理解度、関連知識・技術の理解度						
教科書教材など	「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 「介護実習の手引き」						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護実習Ⅳ	学科名	介護福祉学科			授業方法	実習
担当教員	近藤 舞・徳山 ちえみ・増見 富海子・小野 史恵	学年・学期	2年・後期	時間数	160 時間	必須・選択	必須
授業概要・授業内容	個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。						
到達目標	介護福祉士としての専門的な技術を確立することができる。施設利用者と介護職員の関係を考察し、介護を実践するなかで適切な関係構築ができる。個別介護計画に必要なアセスメントができる。個別介護計画の立案ができる。個別介護計画にそった介護サービスの提供ができる。個別介護計画の妥当性を検討できる。施設における介護福祉サービスの展開方法を理解する。施設と地域との関連を理解する。介護福祉に関する学問的探求心が深まる。介護福祉士の専門性について認識が深まる。						
授業計画・内容							
第1週	業務の引継ぎ(変則勤務)を体験する						
第2週	施設の行事やレクリエーションの企画に参加する						
第3週	施設の様々なサービス活動に参加する						
第4週	チームの一員として利用者の個別性に応じた介護実践ができる						
第5週	日常生活場面での様々な介護を実践する						
第6週	施設の様々なサービス活動に参加する						
第7週	個別利用者の情報収集・アセスメント、計画の立案の方法を学ぶ						
第8週	個別介護計画の実践方法、その評価方法を学ぶ						
第9週	個別介護計画の妥当性について検証方法を学ぶ						
第10週	介護過程の展開、記録方法について学ぶ						
第11週	変則勤務の体験						
第12週	各種会議へ参加する						
第13週							
第14週							
第15週							
評価方法	レポート、授業態度、出席状況、実習記録および学習の理解度、関連知識・技術の理解度						
教科書教材など	「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 「介護実習の手引き」						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護総合演習Ⅲ	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習
担当教員	近藤 舞・徳山 ちえみ・増見 富海子・小野 史恵	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・授業内容	<p>実習の教育効果をあげるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。</p>						
到達目標	介護実習Ⅲに向けての、介護実習生としての準備が整う。						
授業計画・内容							
第1週	介護実習施設における施設運営管理について理解						
第2週	地域住民や社会資源との連携や協働にあり方の理解						
第3週	チームケアの意義と目的、方法						
第4週	介護過程の意義と目的の理解						
第5週	介護諸記録の意義と活用方法について						
第6週	介護実習Ⅲにおける実習計画案の作成						
第7週	介護過程の展開－インテーク・情報収集						
第8週	介護過程の展開－情報の分析、課題の明確化						
第9週	介護過程の展開－介護目標の設定						
第10週	介護過程の展開－介護計画の立案						
第11週	ケーススタディの目的と方法						
第12週	介護実習での体験の共有化とスーパービジョン						
第13週	介護実習報告会：ケーススタディとスーパービジョン						
第14週	介護実習報告集の作成						
第15週	介護実習Ⅲのまとめと介護実習Ⅳへの課題の明確化						
評価方法	レポート、授業態度、出席状況、実習記録および学習の理解度、関連知識・技術の理解度						
教科書 教材など	「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 「介護実習の手引き」						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	介護総合演習Ⅳ	学科名	介護福祉学科			授業方法	演習
担当教員	近藤 舞・徳山 ちえみ・小野 史恵・増見 富海子	学年・学期	2年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・授業内容	介護福祉士養成教育のまとめとしての介護実習Ⅳのための事前学習を進める。各領域の知識と介護実践の統合とエビデンスに基づく介護実践のための介護過程の展開の実践方法について教授する。既習の施設の運営や地域との連携や協働のあり方について確認する。						
到達目標	①知識、技術、態度を活用し、介護過程が展開できる ②施設の管理運営的視点や地域との連携や協働の必要性について理解できる ③ケアチームの一員として、エビデンスに基づく介護実践が展開できる ④受け持ち利用者の全人的理解と尊厳を保持するための介護実践について理解できる ⑤受け持ち利用者の介護過程の展開において実施と評価を行い、事例検討に発展させるための介護実践の科学的探求の視点について理解できる						
授業計画・内容							
第1週	介護実習Ⅳにおける実習計画案の作成						
第2週	介護実習施設における施設運営管理についての理解						
第3週	介護制度・政策と地域における施設の役割の理解						
第4週	介護過程と介護諸記録の活用						
第5週	介護諸記録の意義と活用方法についての理解						
第6週	介護過程展開方法についての体験の共有化とスーパービジョン(アセスメント)						
第7週	介護過程展開方法についての体験の共有化とスーパービジョン(介護計画立案)						
第8週	介護過程展開方法についての体験の共有化とスーパービジョン(介護援助実践)						
第9週	介護過程展開方法についての体験の共有化とスーパービジョン(評価・考察)						
第10週	介護過程展開方法についての体験の共有化とスーパービジョン(介護計画修正)						
第11週	実習の振り返り—自己評価と客観的評価による自己の課題の明確化						
第12週	介護過程の展開から事例研究へ—介護実践におけるエビデンスの構築に向けて						
第13週	介護実習Ⅳのまとめ						
第14週	介護実習ⅠⅡⅢⅣの総活と介護実習報告集の作成						
第15週	介護福祉士としての自己理解と課題の明確化						
評価方法	レポート、授業態度、出席状況、実習記録および学習の理解度、関連知識・技術の理解度						
教科書教材など	「介護総合演習・介護実習」中央法規出版 「介護実習の手引き」						
実務経験						実務経験のある教員による授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	臨床医学概論	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	住居 広士	学年・学期	2年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・授業内容	総論では、疾病、障害の概念、加齢により生ずる変化の理解を講義し、各論では、疾病や障害に応じた介護実践における留意点について講義する。						
到達目標	健康の捉え方、疾病と障害の概要について理解できる。疾病や障害のある人のこころやからだのしくみが理解できる。疾病や障害のある人の睡眠に関連したこころとからだのしくみについて理解できる。死にゆく人のこころとからだのしくみを理解できる。						
授業計画・内容							
第1週	臨床医学の定義、健康の捉え方、発育・発達・加齢による変化						
第2週	障害の医学的側面の基礎的知識、障害の基礎的知識						
第3週	呼吸器・循環器・消化器疾患						
第4週	血液・がん・代謝・内分泌疾患						
第5週	腎・尿路疾患						
第6週	神経・精神疾患、薬物中毒						
第7週	代謝、内分泌疾患、感染症						
第8週	先天性疾患と生活習慣病、難病						
第9週	身体障害						
第10週	発達障害						
第11週	内部障害						
第12週	精神障害						
第13週	重症心身障害						
第14週	疾病や障害のある人の睡眠に関連したこころとからだのしくみ						
第15週	死にゆく人のこころとからだのしくみ・定期試験						
評価方法	試験成績(80%)と授業態度(20%)により評価する。						
教科書教材など	人体の構造と病理に関するテキストを紹介する。						
実務経験	医師としての実務経験、教育経験あり 医師免許・社会福祉士免許・介護福祉士免許取得			実務経験のある教員による授業科目		✓	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	リハビリテーション論	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義	
担当教員	住居 広士	学年・学期	2年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須	
授業概要 ・ 授業内容	リハビリテーションの定義、リハビリテーションとチームケア(連携と協働)、リハビリテーションに必要なからだのしくみ、リハビリテーションに必要なからだのしくみ、介護現場でのリハビリテーションの実際							
到達目標	介護現場で必要なリハビリテーションの基礎知識を理解する。介護現場で必要な日常生活動作(移動、食事、清潔、排せつ、身じたく、入浴等)に関連するところとからだのしくみを理解できる。							
授業計画・内容								
第1週	リハビリテーションとは							
第2週	リハビリテーションにかかわる専門職の連携と協働について							
第3週	リハビリテーションに必要なからだのしくみの理解(骨格系・筋系)							
第4週	リハビリテーションに必要なからだのしくみの理解(神経系・生理学)							
第5週	リハビリテーションに必要なところのしくみの理解(意欲・動機づけ・適応など)							
第6週	福祉用具や住宅改造							
第7週	脳卒中のリハビリテーション							
第8週	脊髄損傷のリハビリテーション							
第9週	義足のリハビリテーション							
第10週	慢性関節リウマチのリハビリテーション							
第11週	身じたくに関連したところとからだのしくみの理解							
第12週	移動に関連したところとからだのしくみの理解							
第13週	食事に関連したところとからだのしくみの理解							
第14週	介護現場で必要なADLと歩行の指導法について							
第15週	まとめ・定期試験							
評価方法	定期試験等							
教科書 教材など	必要に応じてプリントを作成し、配付するので、教科書は定めない。							
実務経験	医師としての実務経験、教育経験あり 介護福祉士免許取得			医師免許・社会福祉士免許・ 介護福祉士免許取得		実務経験のある教員による 授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	認知症ケア論Ⅱ	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	増見 富海子	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要 授業内容	認知症を取り巻く状況について理解させるとともに、認知症に伴うこころと体の変化と日常生活への対応方法、当事者や認知症の家族への支援について教授する。 また、認知症の辻者や家族に対する地域におけるサポート体制、認知症チームアプローチにおける連携と協働の実践事例を交え教授する。						
到達目標	①認知症に関する基礎知識を習得する ②認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解する ③本人のみならず家族への支援、周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する ④認知症の当事者や家族に対する地域におけるサポート体制、認知症チームアプローチにおける連携と協働について理解する						
授業計画・内容							
第1週	認知症を取り巻く状況－認知症の種類と内容						
第2週	認知症を取り巻く状況－認知症ケアの歴史的経緯及び現状						
第3週	認知症を取り巻く状況－認知症の福祉施策・制度						
第4週	認知症に伴う精神的特徴－記憶障害、感情障害、性格変化など						
第5週	認知症に伴う行動の特徴－見当識障害、行動障害など						
第6週	認知症に伴う判断や適応能力の特徴－判断能力の低下、適応能力の低下など						
第7週	認知症に伴う日常生活の変化－徘徊、誤食、収集癖、暴力暴言、不潔行為など						
第8週	認知症介護の理念・原則						
第9週	認知症要介護者へのコミュニケーションと関係形成						
第10週	認知症要介護者の住環境整備						
第11週	認知症要介護者への心理療法－動物介在療法、園芸療法、音楽療法など						
第12週	認知症要介護者と家族へのグループワーク－回想法、RO、家族会など						
第13週	認知症要介護者家族への支援						
第14週	認知症要介護者への地域サポートとチームアプローチ						
第15週	認知症に関するトピックス及び今後の課題						
評価方法	定期試験と出席状況等で評価する						
教科書 教材など	「認知症の理解」中央法規出版						
実務経験	特別養護老人ホームにて現場経験あり				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	医療的ケア I	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	小野 史恵	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	介護福祉士の基礎的教育をベースとして、医療的ケアを安全・適切に実施するための、感染予防・安全管理体制について知識を教授する。また、医療職と介護職の連携の重要性と役割について教授する。						
到達目標	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。個人の尊厳や自立、医療の倫理、自己決定、個人情報保護について説明できる。呼吸器のはたらきや痰の吸引(人工呼吸器・口腔・鼻腔)についての留意点を説明できる。吸引時のヒヤリハット・アクシデントの実際や事故・急変時の対応について説明できる。経管栄養時のヒヤリハット・アクシデントの実際や事故・急変時の対応について説明できる。						
授業計画・内容							
第1週	医療の倫理・医療的ケアを受ける利用者の尊厳と自立、自己決定、個人情報						
第2週	医療行為に関する法律、保健医療に関する制度(医行為とは、介護職と医行為)						
第3週	チーム医療とその実際(事例を通じて介護職の役割の理解) 安全な療養生活						
第4週	安全で確実な医療的ケア(リスクマネジメントやヒヤリハットについての知識)						
第5週	救急蘇生法の知識と技術、緊急時の対応や連絡方法、医療連携						
第6週	感染予防や職員の健康管理の必要性						
第7週	居室などの療養環境の清潔や消毒法(消毒と滅菌・消毒薬の使い方の留意点)						
第8週	居室などの療養環境の清潔や消毒法(消毒と滅菌・消毒薬の使い方の留意点)						
第9週	呼吸器のしくみとはたらき(人体のしくみ・呼吸器の解剖生理・換気とガス交換・生命維持)						
第10週	高齢者及び児童の呼吸の状態観察と呼吸の異常の観察や利用者への対応						
第11週	人工呼吸器と痰の吸引(1)人工呼吸器のしくみ、必要性、痰の排出のしくみ・痰の吸引の必要性						
第12週	人工呼吸器と痰の吸引(2)吸引をうける利用者・家族の理解、子どもの吸引の留意点						
第13週	吸引に関連する呼吸器系の感染と予防						
第14週	消化系のしくみとはたらき、消化吸収、消化器の症状、経管栄養の必要性、種類						
第15週	経管栄養時のヒヤリハット・アクシデントの実際と対応・まとめ・定期試験						
評価方法	総合評価100点とし60点以上を合格とする。筆記試験70%、小テスト30%(3回実施)						
教科書 教材など	「医療的ケア」中央法規出版						
実務経験	保健所にて保健課・健康長寿課等の実務経験あり。また、看護師・保健師・養護教諭の資格を取得			実務経験のある教員による 授業科目			✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	医療的ケアⅡ-1	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	小野 史恵・馬越 民恵・ 中野 宏子	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要 ・ 授業内容	介護福祉士の基礎的教育をベースとして、医療的ケアの実施に関する制度の概要および医療的ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを字資するための感染予防・安全管理体制」について知識を教授する。また、医療職と介護職の連携の重要性と役割について教授する。						
到達目標	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 ・喀痰吸引の基礎知識・実施手順、実施上の留意点を説明できる ・経管栄養の基礎知識・実施手順、実施上の留意点を説明できる ・評価基準に沿った演習:利用者の状態に応じた安全な医療的ケア技術を習得する ・喀痰吸引、経管栄養時のヒヤリハット・アクシデントの実際や事故・急変時の対応を習得する						
授業計画・内容							
第1週	喀痰吸引に必要な人体の構造と機能の理解						
第2週	痰の吸引で用いる器具・器材とその仕組み、清潔の保持の理解						
第3週	吸引の技術と留意点(1)必要物品の準備・設置と留意点吸引前の利用者の状態観察と準備						
第4週	吸引の技術と留意点(2)吸引の実施と吸引中・後の観察と留意点及び報告						
第5週	喀痰吸引時の急変状態への対応						
第6週	喀痰吸引と救急蘇生法						
第7週	子どもの痰の吸引(口腔内吸引・鼻腔吸引・気管カニューレ内部の吸引)の技術と留意点						
第8週	痰の吸引(口腔内吸引・鼻腔吸引・気管カニューレ内部の吸引)演習(1)						
第9週	痰の吸引(口腔内吸引・鼻腔吸引・気管カニューレ内部の吸引)演習(2)						
第10週	痰の吸引(口腔内吸引・鼻腔吸引・気管カニューレ内部の吸引)演習(3)						
第11週	痰の吸引(口腔内吸引・鼻腔吸引・気管カニューレ内部の吸引)演習(4)						
第12週	痰の吸引(口腔内吸引・鼻腔吸引・気管カニューレ内部の吸引)演習(5)						
第13週	経管栄養に必要な人体の構造と機能について						
第14週	生命維持における栄養・水分の重要性						
第15週	経管栄養実施上の技術と留意点(1)必要物品と環境の整備の理解						
評価方法	小テストの実施・演習は、各評価項目の基準により評価する・実施回数の各項目以上を実施回数とし、項目に沿っての評価とする。						
教科書 教材など	「医療的ケア」中央法規出版						
実務経験	保健所にて衛生課・介護保険課・保健課・市民健康課・国民健康保険課等の実務経験あり。また、看護師・保健師・養護教諭の資格を取得/看護師、施設管理者等				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	医療的ケアⅡ-2	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義	
担当教員	小野 史恵 ・ 馬越 民恵・ 中野 宏子	学年・学期	2年・後期	時間数	30 時間	必須・選択	必須	
授業概要 ・ 授業内容	介護福祉士の基礎的教育をベースとして、医療的ケアを安全・適切に実施するための、感染予防・安全管理体制について知識を教授する。また、医療職と介護職の連携の重要性と役割について教授する。							
到達目標	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 ・喀痰吸引の基礎知識・実施手順、実施上の留意点を説明できる ・経管栄養の基礎知識・実施手順、実施上の留意点を説明できる ・評価基準に沿った演習:利用者の状態に応じた安全な医療的ケア技術を習得する ・喀痰吸引、経管栄養時のヒヤリハット・アクシデントの実際や事故・急変時の対応を習得する							
授業計画・内容								
第1週	経管栄養実施上の技術と留意点(2)実施と実施中・後の観察と留意点及び報告							
第2週	子どもの経管栄養実施上の技術と留意点							
第3週	経管栄養により生じる危険性と安全確認・急変・事故発生時の対応と事前対策							
第4週	経管栄養時の急変状態への対応							
第5週	経管栄養(胃ろうまたは腸ろう・経鼻)とヒヤリハット、アクシデントの実際(事例から)							
第6週	経管栄養と救急蘇生法							
第7週	経管栄養の手順と留意点							
第8週	経管栄養(胃ろうまたは腸ろう・経鼻)と救急蘇生の評価項目に沿った演習(1)							
第9週	経管栄養(胃ろうまたは腸ろう・経鼻)と救急蘇生の評価項目に沿った演習(2)							
第10週	経管栄養(胃ろうまたは腸ろう・経鼻)と救急蘇生の評価項目に沿った演習(3)							
第11週	経管栄養(胃ろうまたは腸ろう・経鼻)と救急蘇生の評価項目に沿った演習(4)							
第12週	経管栄養(胃ろうまたは腸ろう・経鼻)と救急蘇生の評価項目に沿った演習(5)							
第13週	吸引、経管栄養時の急変への対応:救急蘇生法演習							
第14週	医療的ケアを必要とする利用者や家族のプライバシーの配慮							
第15週	医療職への報告・連絡および記録の意義・まとめ、試験							
評価方法	小テストの実施・演習は、各評価項目の基準により評価する・実施回数の各項目以上を実施回数とし、項目に沿っての評価とする。							
教科書 教材など	「医療的ケア」中央法規出版							
実務経験	保健所にて衛生課・介護保険課・保健課・市民健康課・国民健康保険課等の実務経験あり。また、看護師・保健師・養護教諭の資格を取得/看護師、施設管理者等					実務経験のある教員による 授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	音楽療法入門	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	秀岡 素子	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業内容	音楽療法の定義とその歴史、また音楽の使い方などの基礎的な知識について学ぶ。領域別での音楽療法技法についても触れる。						
到達目標	音楽療法の基礎的な知識を理解すると共に、ある程度の技法を身につける。						
授業計画・内容							
第1週	音楽療法の定義と内容						
第2週	音楽療法の歴史						
第3週	音楽療法の領域						
第4週	心理・生理・社会と音楽との関わり						
第5週	身体・言語へのアプローチ						
第6週	認知・情緒・社会性へのアプローチ						
第7週	アセスメントについて						
第8週	音楽療法プログラムの作り方						
第9週	児童の音楽療法・講義						
第10週	ロールプレイ						
第11週	成人の音楽療法(リハビリ領域)						
第12週	ロールプレイ・高齢者の音楽療法・講義						
第13週	高齢者の音楽療法・講義・ロールプレイ						
第14週	ロールプレイ・質疑応答・レポート						
第15週	まとめ						
評価方法	課題レポート及び授業態度						
教科書 教材など	歌の宝石箱(ドレミ楽譜出版社) 標準音楽療法入門(春秋社)						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	日本文化福祉論	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	川上 道子	学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要 ・ 授業内容	日本についての基礎知識として、地域を理解するために地理や日本語の特徴を知る。高齢者や障害者とのコミュニケーションや接遇、生活支援に欠かせない日本文化の理解について、通過儀礼を中心に説明する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の地理や日本語と文化について説明できる ・高齢者や障害者とのコミュニケーションの中で、日本の通貨儀礼との関係を説明できる ・自国の文化との違いを明確にし、記録することができる 						
授業計画・内容							
第1週	日本についての基礎的知識(地理・歴史・日本語の特徴)						
第2週	日本文化と通過儀礼① 誕生祝い・子育て						
第3週	日本文化と通過儀礼② 幼児・学童期						
第4週	日本文化と通過儀礼③ 成人・結婚・出産						
第5週	日本文化と通過儀礼④ 高齢期・病気・葬儀						
第6週	日本語と文化① 漢字・カタカナ・ひらがな						
第7週	日本語と文化② 習字・手紙・はがき						
第8週	日本の文化と福祉① 音楽(童謡・唱歌・大衆歌)						
第9週	日本の文化と福祉② 芸術・芝居・歌舞伎						
第10週	日本の文化③ 道(舞・華道・茶道・武道)						
第11週	日本の文化④ 生活習慣(衣服)						
第12週	日本の文化⑤ 生活習慣(食事)						
第13週	日本の文化⑥ 生活習慣(住居)						
第14週	日本の文化と福祉(歴史からみた障害児)						
第15週	試験・自国の文化との比較・振り返り						
評価方法	①授業中の質問・リアクションペーパー 20点 ②課題・小テスト 20点 ③期末テスト 60点 ①②③の合計点が60点以上を認定する						
教科書 教材など	資料を準備する、日本文化に関するDVD・CD						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	社会福祉施設運営論		学科名	介護福祉学科		授業方法	講義
担当教員	渡辺 裕文		学年・学期	2年・前期	時間数	30 時間	必須・選択
授業概要・ 授業内容	制度や政策及び関連法規に加えて、地域の福祉ニーズと組織の使命に基づく社会福祉施設運営のあり方を理解する。実際の現場で求められる運営やマネジメントに関する知識を体系的に学び、ワークショップを通じて自らが管理者のつもりで課題を考察する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉施設の管理者に必要な知識、視点、責任を理解する。 ・組織でリーダーに選ばれるための思考や行動を理解する。 ・専門性のみにとらわれない広い視野と柔軟な発想を持つ。 						
授業計画・内容							
第1週	オリエンテーション：講義の概要と進め方等について理解する。						
第2週	リーダーの役割と資質：組織のリーダーに必要なスキルを理解する。						
第3週	施設の設備と人員：特養に必要な設備や人員、基準等について理解する。						
第4週	施設の運営主体：社会福祉法人やその他の運営主体について理解する。						
第5週	施設開設までの流れ：特養を開設するまでの準備や手続き等を理解する						
第6週	第1回 小テスト テストの解説等						
第7週	労務管理と人事管理①：職員の採用や賃金、規則等について理解する。						
第8週	" ②：リスクマネジメントについて理解する。						
第9週	" ③：サービスの維持や改善努力等について理解する。						
第10週	介護福祉事業の開設事例①：計画～開設までに準備すること等を知る。						
第11週	" ②：開設～3年間の成果や失敗等について知る。						
第12週	" ③：将来のために準備や対策しておくべきことを知る。						
第13週	講義のまとめ①：管理者やリーダーに選ばれるためにすべきことを知る。						
第14週	" ②：管理者やリーダーに選ばれたら行うべきことを知る。						
第15週	講義の振り返り：質疑応答、補足講義、意見交換等を行う。						
評価方法	課題の評価、出席状況等により評価する。						
教科書 教材など	授業にて適宜指示する。(パワーポイント等)						
実務経験	社会福祉法人で実務経験あり 社会福祉主事任用資格・介護支援 専門員・社会福祉士				実務経験のある教員による 授業科目		✓

2024年度 授業計画(シラバス)

科目名	障害者スポーツ指導員養成講座	学科名	介護福祉学科			授業方法	講義
担当教員	秋政 邦江	学年・学期	2年・後期	時間数	16 時間	必須・選択	必須
授業概要・授業内容	(公財)日本パラスポーツ協会公認指導者制度を教授する。全国障害者スポーツ大会の概要と障がい者スポーツの現状を理解させる。障害に応じたスポーツの工夫・実施方法を演習により教授する。						
到達目標	① (公財)日本パラスポーツ協会公認指導者制度を理解する ② 全国障害者スポーツ大会の概要と障がい者スポーツの現状を理解する ③ 障害に応じたスポーツの工夫・実施方法を習得する						
授業計画・内容							
第1週	(公財)日本パラスポーツ協会公認指導者制度						
第2週	(公財)日本パラスポーツ協会公認指導者制度と課題						
第3週	全国障害者スポーツ大会の概要と障がい者スポーツの現状						
第4週	全国障害者スポーツ大会の概要と障がい者スポーツの現状						
第5週	障害に応じたスポーツの工夫(1)企画、実施方法の検討(演習・実技)						
第6週	障害に応じたスポーツの工夫(2)企画、実施方法の検討(演習・実技)						
第7週	障害に応じたスポーツの工夫(3)企画、実施方法の検討(演習・実技)						
第8週	障害に応じたスポーツの工夫(4)成果発表(演習・実技)						
第9週							
第10週							
第11週							
第12週							
第13週							
第14週							
第15週							
評価方法	意欲、態度、学習意義の理解度および関連知識・技術の理解度						
教科書 教材など	「全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)」公益財団法人日本パラスポーツ協会 「レクリエーション概論」ヘルス・システム研究所						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	